

第 3 回 宇治市都市計画マスタープラン検討部会 議事録

日 時	令和 2 年 10 月 19 日 (月) 午後 2 時 00 分 ~ 午後 4 時 30 分
場 所	宇治市役所 8 階大会議室
出 席 委 員 (敬 称 略)	部会長 多々納 裕一 職務代理者 森 正美 委員 岡田憲夫、野田崇、山本直彦、小出純子、後藤正明
議 題	1. 宇治市の都市構造について 2. 宇治市の人口等について 3. マスタープランの方向性に必要な項目について

会議概要

部 会 長	「宇治市の都市構造について」、「宇治市の人口等について」、「マスタープランの方向性に必要な項目について」事務局より説明を。
事 務 局	資料説明
部 会 長	ただいまの説明について意見・質問等あれば。
委 員	<p>宇治市のビジョンを選定すべきであるという結論は出せない。宇治市の人口ビジョンをこの点の分析をした結果、採用すべきであるというような結論を出せるような分析ではない。比較してきているだけであって、楽観的な予測と、悲観的なのか、普通なのかは分かりませんが、別にある予測があって、それぞれのもとで将来がどのようになっていくのだろうかということを見ているだけです。まずここまでの段階では将来に向けてどんな課題がありそうかということを見られている。</p> <p>挙がってきた課題は、生活圏におけるサービスの施設の人口密度等が減少していくことによって、継続できなくなるものがいくつか出てくるかもしれない。今は非常に充実しているように見えるけれども、そういう傾向が見えましてというのが、分かったことだろうと思う。</p>
委 員	<p>実態に基づいて議論しないと、結果的にこうあってほしいという話を前提に話を始めてしまうと、何に対してどういう計画をしているのかがそもそも成り立たない。はっきりと、これが到達できる数字だということが、こういう政策もあって、もう実際にこれは実数に近い推測値として出せるという話をしてくだされば別ですけど、こうあったらいいなという数字でこの都市計画の 20 年の話を始めてしまうということ自体はやはり無理があるということを確認しないといけないし、加速度的に速まっているわけなのできちんと押さえて頂きたい。</p>
委 員	<p>人口に関してはモデルの話は本当はもっと色々議論があるのですが、ただ、都市計画マスタープランを作っていく上において人口の占める比率、それほど大きく取らなくてもいいのではないかと考えている。昔はフレームを置いて、それに対応する都市施設はいくらかという、議論は重要でしたが、人口があって、それなりに施設が充実しているのであれば、あと減っていく議論であるならば、その減るときにどういうまちの姿に落ち着かせるかという議論なので、フレーム自身、人口が多少動いてもそんなに大きく変わらないのではないかと、そこに依存して決める必要があるかと言われるとそうでもないかなという気はします。</p> <p>今までと違った発想でいい、人口にそれほど拘泥した議論をしなくてもいいのではないのか</p>

	<p>など思うのですけれど、人口について全く何も考えていないというわけにはいかないのです、それはあっていいのです。</p>
委員	<p>宇治市の人口流出と流入の割合は京都市がすごく大きい。京都市は人口規模が大きく競争相手にはならないが、それでも京都市の南部と比較したらどうなのかとか、もう全然比較にはならないという結果が出るのかもしれないけれども、そういうところも確認できればと思いました。</p>
委員	<p>人口流入、流出の議論をするために分析しているのだという議論になると、今度は逆に転出先の魅力が何かという議論をしないとイケない。</p>
委員	<p>人口フレームの話なのですが、結局いろいろ分析したりして変えていくのですが、この都市計画マスタープランとして、人口フレームを決められるご予定なのですか。それとも、他の市町村ですと、それより上位の総合計画で、あるいは人口ビジョンで、人口フレームが決まって、それを受けざるを得ない、計画の上下の関係からそういう場合もあるのですが、それを受けた上で、都市計画版の政策とか、そういう議論をするほうが建設的なのではないか。</p> <p>都市計画マスタープランとして、総合計画の人口フレームとは違う人口フレームを作って、それを打ち出してやってくのだったら、もっとここを詰めて話す必要があると思います。最終的なフレームをどのように決めるのかがもし決まっているのであれば、それを受けてそこから都市計画としてどうやっていくかって話をしたほうが建設的なのではないか。</p>
事務局	<p>人口フレームにつきましては、おっしゃるとおり京都府が定める区域のマスタープラン、そちらのほうで定めてまいりますので、当然、われわれがコントロールしきれるものではございません。将来人口の明確な設定とか、目標値を定めて、それを目指そうという宇治市の姿勢に対して、どういった施策を組み立てていかなければいけないのかというところを宇治市で議論をして、それをフレームの中にどこまで入れられるかはあるのですけれど、そういった申し入れをしていく必要があるのかなと思っております。フレームをここで議論するっていうものではないのかなというふうには考えております。</p>
委員	<p>人口フレームを先に与えてやらないと作れないような都市計画を考えるのではないという理解でいいか。</p> <p>全体を16万人で作るマスタープランと、13万人で作るマスタープランが違いますという議論なのか、そうでないのかというわけなのですが、どちらにも対応するようなマスタープランを作るのですよね。</p>
事務局	<p>今のまちであったり、産業や商業、人の生活を守る、経済が成り立つというところを考えると、定住人口というのは必要なのかなと考えていたのです。目標人口を定めて、減っていく中でも、持続が可能なまちというのが探れないのかという思いで考えていました。</p>
委員	<p>経済、市の税収がどう変わってくるのかとか、市のなかでの産業構造がどのように変わってくるかというのは、人口とか、産業構造に依存するのは当然だと思う。都市施設計画を考える場合に、人口規模が増えている時は、足りないところが明らかなので、増強する必要がある。</p>
委員	<p>人口フレームも重要だが、人口が減っていけば余裕が出てくるわけですから、ウエイトを置かなくてもいいのかなと。今度は生活の質の低下というか、都市計画に関連するところに出てくるサービスの低下がどのように起きそうか。どう防ごうかという議論は一方であるかと</p>

	<p>思います。</p> <p>色々な人口フレームとか、人口の予測をされていると理解したらいいのかなと思う。人口フレームはあまり重点を置いて議論しなくてもいいが、色々なケースがあるなかで、議論できる範囲の話をやりましょうと考えた方が生産的だと思う。そうは言ってもそれぞれのケース、整合的である必要あると思うので、それについては精査してください。</p> <p>前提条件としての人口ぐらいの話で、幾つかのパターンがあるというようにされたら、そんなおかしくない話だろう。</p>
委員	<p>宇治市内の中での移動みたいなものが、今まではあまり議論されてなかったと思うのですが、もっと高齢化が進んでいくと、徒歩で移動するという前提自体がそもそも成立しなくなるのではないか。</p>
委員	<p>人口減少だけでなく、いろんな活動が下がる、今までのダイナミクスとかなり違う動きをする中で、都市計画をどうするかという段階に入り始めたので、発想を転換せざるを得ないというメッセージをもう少し出していただいてもいい。</p> <p>そのときに人口が分からないと、やはりありとあらゆるものが始まらないというのは事実なので、人口をベースに、予測を立てて、そこから診断に導く、いきなりこうしなければならないとかこうしますではなく、診断の結果どんなことが読み取れるのかというようなことを判断して、今後の都市計画はどのように舵を切っていくかざるを得ないのかというように考えていただいても良いのではないか。</p>
委員	<p>これからは人口を目標にするということが、都市計画の根本には据えられない。例えば商業施設の維持も産業施策が関わってくる。他の施策とのフィードバックの関係が成り立たないと、都市計画でいくら頑張りますと言っても、夢物語というかある意味越権行為になってしまう。このままでは、例えば買い物難民が出てくるかもしれない、それに対しそのまま放っておいていいとは限らない。相対的な人口の数字にはそれほど担保はできないけれども、相対的な意味合いがある。その2つの人口フレームの予測の仕方があり地域間に関しては、もちろん仮説があるので、地域が相対的にどういう状況になるかということは分かるはずなので、この地域間でどんな違いが出てくるかを丁寧に読み解いていくことが、これからのマスタープランでもそういうことを課題として提示するというのも大事なのではないか。</p> <p>今までのやり方に則した人口の押さえ方と、それをベースにした都市計画から脱しきれない、都市計画審議会として今のようなことを、どう受けるかというのはまた説明がありますが、せっかくこのマスタープランをいろいろ議論していただくので、発想転換が必要だという場合は、はっきりそういうようなことも言っていただいて、人口の問題についても、かなり冷静な分析というのを踏まえたいご意見を頂いていいのではないか。</p>
委員	<p>人口が減少していく社会のなかにおいて、都市計画マスタープランにおける人口フレームがどういう意味を持つかという、将来の施設量を定めるためのフレームではない。</p>
委員	<p>人口が色々変わってくるかもしれない状況を前提として、そこに対して都市計画をどのように描けば、どのようなサービスが享受できるか。都市計画のほうでは人口の誘導あるいは都市の形成がありますから、そういう観点で見たときに、どういうことを狙って展開していくべきかという議論。</p>

委員	人口減少社会におけるまちづくりを、私たちはまさに都市計画マスタープランで考えているという前提共有がされていない。明確に今回の都市計画マスタープランは、人口減少社会における計画づくりだということを、やはりもう少ししっかりと打ち出してほしい。メッセージをとってはっきりと、パラダイムシフト、トゥレットですよというぐらいにここで言わないと。
委員	産業戦略について、土地、産業構造に入ってくるが、ある程度土地利用とか、施設誘導的な部分とか居住誘導みたいなところで、どうやって働き方と住まい方みたいなものを結び付けていけるのかなっていうことを考えていく必要があるだろう。
委員	新しいものを作ってアピールしたい建築家の人たちでさえ、学生にどういう設計をさせるかという、大事な建物があるのだけど、今使われてなくなって壊される建物をどう使うかを提案させている。あるものをどのように使うかということを考えている。都市計画マスタープランを改訂するにしても、やはり地区ベースのところにある程度丁寧に何か記述したり考えるということにシフトを移さないといけないのかなというふうに思いました。
委員	地区のキャラクタリスティックスというか、要するに特性化しているのですね。そういう類型化自身も必要ないというような議論もあるし、あったほうがいいという議論もある。これは都市のなかでの機能分担としてあるので、全般の構造の話もしなきゃいけない。
委員	人口減少の中でどのようなところに視点を置いてこれからのまちづくりを考えていかないといけないかを、できれば何か書いていけたらいいのではと思います。いきなり都市計画の役割、交通利用の役割、交通というふうに分けられてしまいますと、双方の関係がなく、候補地として挙がっている工業地は3つある、そんな政策課題しか出てこないような気がする。交通に関しては宇治市公共交通体系基本計画と連携しますとなっていますが、いずれそういう風書き留めるの事になるのであろうが、前段のところでは人口減少社会にあって、このまちをどのように作っていくべきかというところを何かうまくここでまとめられたら良いのではないのかなと思います。
委員	非常に高齢化率の高いエリアはどういうところに出てくるのか、子どもがいないエリアはどこに出てくるのか、そういうのが見ると何となく宇治市の将来が分かってくる。将来の宇治市をどんなことで診断したらいいかという観点で議論したほうがいいかもしれませんね。
委員	2040年にどんな姿を目指したいのかが少し見えにくかったかなと思いました。人口の自然減少は仕方ないにしても、転出してしまおう人が多い、転入してくる人が少ないということは、やっぱり宇治市の魅力発信が足りていないのかもしれない。アンケートを取られているので、良い所はすごくあるのですけれども、逆にすごく少ないところの底上げも必要なのだろうと思います。一番競合しているのは京都市なので、比較されると負けてしまっている所なのかなと思います。何かこの部分の数値もすくい上げてほしいなと思いました。
委員	今までの都市計画は言うまでもなく人口が増えてきた時代に基盤整備とスクロール防止という目的が入って、そのために区域区分という非常に強い規制が敷かれたし、損失補償がないのはそれだけ強い必要性があって正当化されるということだったのですが、開発圧力、人口圧力がなくなれば規制が正当化できなくなるということで区域区分が任意化された所もあるのだと思っています。だから少なくとも今の都市計画に基づく規制を正当化していったのは都市が拡大するという現状だったからで、それがなくなると今流の規制はたぶん正当化が困難

	<p>になっていくと思う。</p> <p>今までの都市計画はプランを作ってそれを規制と事業で実現していくっていう枠組だと思うので、そのままの枠組を人口減少の時代に持っていけるかっていうとたぶん無理なのだろう。都市計画を何のためにやるのだろうということがもう問題になると思うのです。</p> <p>例えば買い物が行きにくいとか、医者に行きにくくなるというときにはむしろ都市計画のようなもののなかで交通、例えばコミュニティバスが走れば行ける所はぐっと広がるわけですから、そういう議論まで含めていくことになるのだろう。</p>
<p>委 員</p>	<p>少し下がってくるように見えることを逆に力に変えていく、それはかなり市民力もあると思います。ここで議論ができてないのは、そこにある種の参加が必要だと。だから住んでいる人、働く人、行政の人を含めて、あるいはここに訪れる人を含めてこのまちをより生かしたいという形で、そういう取り組み力を付けていく。そういう促しの一つとして都市計画がなければいいなと思います。そのためにはもちろんビジョンも必要だと思うし、ある種の既に蓄えられたストックを新たな資源に変えていく。これもやはりみんなの力で変えていくという、そういう進め方が必要だろうと思います。そこに住んでいる人の、生活者も含めて、もう少ししたいああしたいっていう、そのそういう診断がいろいろ出てきて、それが広く長い目で見ればここで問われている大変になりそうなことをあるところで気付いて、その形を起こしていくような形になると思います。やはり宇治らしいものにさらに改定していく、そのためには市民の力も借りるということが大事だと思います。</p>
<p>部 会 長</p>	<p>キーワードで診断とか、将来予測とか、ビジョンとか、そういうのは議論がありますね。まず現状分析・診断ですよね。色々な議論を委員の先生方から言っていたらいいと思う。都市計画的に見ると、もっといろんな宇治の良くないところもあるはずなのです。それをリストアップして、指標として出しておくことが大事。今のところ工業の振興が大事だというようなビジョンしか出ていない。もっと他にもいろいろ産業政策とかあったと思うので、その辺もリファインしながら、ビジョンを次の議論できるようになるといいなと思います。</p> <p>現状分析に関しては今回までで、だいたまとめていただいたと思うので、次のビジョンも含めて進めていければと思います。</p> <p>将来へ向けた懸念がどういうところに生まれてきそうかという診断に関して、先生方からリクエストがあったら書いていただいて、資料を用意していただいてシェアしてもらおうと、より課題がクリアになる。</p>